

## 長岡税務署管内税務団体連絡協議会長賞

優秀

### 消費税増税と日本のこれから

新潟県立長岡大手高等学校

三年 安藤 寧音

二〇一九年十月一日より、消費税が十パーセントに増税されます。そこに私は少し危機感を感じています。今回はその危機感について考えていきたいと思えます。

まず、消費税というのは間接税の一種であり、税金を簡単に、かつ早く集められることが利点です。しかし、収入の低い家庭においては、税の負担が大きくなり、生活のネックになります。そこで一つ疑問なのは、日本国民の生活は豊かになったのかということなのです。

アベノミクスなど日本は今、好景気だと言われていますが、実感できている人は少ないというのが現状だと思います。確かに、アベノミクスが起こっているからこそその増税かもしれないませんが、実感できていない人も大勢いる中でその増税は厳しいのではないのでしょうか。

次に日本の財政についてです。今、日本の収入の約六割が税金です。しかし、財政赤字が続いています。そこで増税を

行います。よく考えてみて下さい。このままでは、一つ大きな悪循環が生まれてしまうのかもしれない。

そもそも、何年も財政赤字が起こっています。限られたお金を上手に使えていないのではないのでしょうか。もし、増税をして歳入が増えたとしても。しかし、限られたお金を上手に使えていない今、増やしたところで財政赤字なく使えるのでしょうか。財政赤字が続く、増税し収入を増やす、上手に使えず再び財政赤字、そして増税。ある程度で歯止めはかかると思いますが、他の先進国より税率の低い日本はまだ増税の余地はあるでしょう。

ここまで、私は私自身が感じた危機感についてお話しましたが、増税すること一つ、期待していることがあります。それは、公債が減ることです。公債は将来の世代、つまり今後社会を担う私たちの負担になります。増税をして、借りる公債が減っていけば、将来世代の負担が少しですが、軽くなります。このように税金も上手に使えば、日本にある課題も少しずつですが減らしていけます。

税金は所詮、人のお金です。国民からもらったお金なので、子どもがお年玉をもらって、それを大切に使うように、税金も大切に使わなければなりません。この意識が少しずつ欠けてきているように思います。再びその意識を取り戻す、今はいい機会ではないのでしょうか。改めて増税そして国のこれからを考える、良いタイミングが来ているのです。